

# 平成28年度 地域支援セミナー

テーマ「あたり前の暮らしから見えてくる豊かさ」

## 【趣 旨】

本年4月から「障害者差別解消法」が施行され、障害があってもなくても「共に生きる」ことを目指す共生社会のため法の整備は着実に進んでいます。しかし、現実の社会には未だ様々な障壁があり、悩み、苦しみながら暮らしている人達が大勢いることを忘れてはなりません。

私達の仕事が職業として社会的に認知されてから半世紀足らずです。戦前から戦後福祉制度が創設されるまでの福祉の黎明期ともいべき時代に奔走した「第1世代」と、その理念を継承・具現化し、わが国の福祉の成長期を支えた「第2世代」。そして今、地域移行の先駆けとなった発展期の時代を担った「第2.5世代」といべき人たちが引退の時期を迎えようとしています。

徐々に制度が整い、いわば福祉の定着期に入りつつありますが、障害の有無にかかわらず、すべての人たちが「あたり前に豊かに暮らす」ため、更なる福祉の発展・充実が望まれるいま、次の世代にその理念と「仕事」をいかに引き継いでいくのが課題となっています。

本セミナーでは、福祉発展期を牽引した「第2.5世代」のお一人である山田優氏をお迎えして、自分達の仕事への誇りと自信、勇気をいただきたいと考えています。

また、2日目は3つの分科会にわかれ、「生きる力に繋がる『余暇支援』」、「ストレングスを用いた個別支援計画」、「触法障害者等の自立生活に向けた支援」について議論します。

たとえ障害があっても、生まれ育った住み慣れた地域社会の中であたり前の暮らしを送りたい。そんな“素朴な”願いを叶えるために。

「平成28年度 地域支援セミナー」への多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	平成28年11月9日（水）・10日（木）
会 場	新横浜国際ホテル（神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-1）
主 催	公益財団法人 日本知的障害福祉協会 地域支援部会
対 象	障害児・者の地域支援に携わる関係機関職員等
定 員	400名
参加費	セミナー参加費 11,000円 交流会参加費 7,000円（任意参加）

## 【日 程】

### 第1日目 11月9日（水）

12:00	12:30	12:40	13:50	15:20	15:30	17:00	18:00
受付	開会式	行政説明	講 演	休憩	シンポジウム	移動	交流会

### 第2日目 11月10日（木）

9:00 12:00

#### 【分科会に分かれて討議】

第1分科会：生きる力に繋がる『余暇支援』

第2分科会：暮らしの支援に着目したストレングスを用いた個別支援計画

第3分科会：触法障害者等の自立に向けた福祉的支援の現状と課題

## ■内 容■

第1日目 11月9日 (水) 12:30~17:00

### I 行政説明 (12:40 ~ 13:50)

『障害福祉施策の動向』

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 (予定)

### II 講演 (13:50 ~ 15:20)

『続 地域生活のススめ★スペシャル』

山田 優 氏

(福島県被災地における障害福祉サービス基盤事業総括コーディネーター)

【略歴】 1985年：愛知県入所更生施設まどか施設長      2005年：長野県西駒郷地域生活支援センター所長  
1997年：知多地域生活支援センターらいふ所長      2011年：東日本大震災被災者支援活動に従事  
2003年：長野県自律支援部部長

### III シンポジウム (15:30 ~ 17:00)

『いつもの暮らしの中で、未来を描く～次の時代はぼくらにまかせて！～』

「事件は会議室でおきているんじゃない。現場でおきているんだ!!」

と、かの青島巡査部長は「踊る大捜査線 THE MOVIE」の中で叫んでいます。

映画のテーマソングが流れてきそうですが、福祉の現場ではいかがでしょうか。

このシンポジウムでは、今まさに、仲間達の一番近くで関わっている現場を支えている若手職員の皆さんに、地域福祉の未来を語っていただきます。

心と身体が充実した世代の、元気でちょっと生意気な発言に、乞うご期待です！

#### シンポジスト

岸本 拓人 氏 (香川県：グループホーム・ライフ サービス管理責任者)

高木 伸斉 氏 (滋賀県：障害福祉サービス事業所 Quocare 所長)

宮崎 直子 氏 (岡山県：わくわくワーク 地域生活 支援統括)

#### 助言者

山田 優 氏

#### 進行

山崎千恵美 氏 (北海道：社会福祉法人 NIKORI / 地域支援部会部会長)

### IV 交流会 (任意参加) (18:00~)

## 第2日目 11月10日(木) 9:00~12:00

### 第1分科会

#### テーマ:生きる力に繋がる『余暇支援』

地域生活支援における「余暇支援」は古くて新しいテーマといえるのではないのでしょうか。ある調査によると、日本人は限られた余暇時間を有意義に過ごそうという考え方が強くなりつつあり、自分に合った余暇を選び自分のための余暇を過ごすようになってきているそうです。人生を豊かにし、生活を潤いのあるものにしてくれるのが「余暇」であるということができます。

かつての「余暇支援」は、本人のためというより家族等のレスパイトの要素もありましたが、今日では、人間が生きていく上で、「余暇を楽しむ力」が「生きる力」に繋がることを証明するような活動が出てきています。視点を変えた「余暇支援」について、一緒に語らい、幸せの窓を拓いていきましょう。

#### シンポジウム:生きる力に繋がる『余暇支援』～「生活の質」は幸福度指数の向上から～

##### シンポジスト

- 高木 伸齊 氏(滋賀県:障害福祉サービス事業所Quocare 所長)
- 岡本 容昌 氏(滋賀県:障害福祉サービス事業所Quocare 利用者)
- 清水 寛二 氏(福井県:障害福祉サービス事業所つくし寮 管理者)

##### 進 行

- 渡部 等 氏(愛知県:愛光園地域居住サポートセンター/地域支援部会副部会長)

### 第2分科会

#### テーマ:暮らしの支援に着目したストレングスを用いた個別支援計画

グループホームは「暮らしの場」であり、利用者の思いや意思がもっとも尊重されなければいけない場所です。しかしながら私たち支援者は、利用者が願う暮らし方の実現を最優先するまえに、ともしれば「指導」や「訓練」といった視点で利用者に対峙しがちです。

医学モデルから社会モデルへの転換を経て、利用者を取り巻く環境に支援の視点が向く中、今回は演習形式でストレングスを用いて利用者の思いに寄り添った暮らしを支援するための個別支援計画を実際に作成し、グループホームなどの暮らしの場で我々支援者に求められる支援の本質について考えてみたいと思います。

#### 演 習:暮らしの支援に着目したストレングスを用いた個別支援計画の作成

##### 講 師

- 富岡 貴生 氏(神奈川県:カビーナ貴志園 園長)
- 志賀 信道 氏(神奈川県:サービスセンターぱる 所長)
- 長岡 洋行 氏(埼玉県:障害者支援施設どうかん 施設長)

##### 進 行

- 石本 伸也 氏(香川県:もえぎの里支援センター/地域支援部会委員)

## 第3分科会

### テーマ：触法障害者等の自立に向けた福祉的支援の現状と課題

触法障害者等の地域の福祉施設での受け入れについては現状では十分とはいえません。そして、支援の現場では、障害が軽いゆえの「生きにくさ」（たとえば「ふつうでありたいがふつうにできないジレンマ」故に起こしてしまうトラブル等）への対応や、誤った学びから招いてしまった過ちへの対応（学び直し）、それらに対応する職員の支援力を強化するための具体的な研修内容等、多くの課題があります。

本分科会では、地域生活定着支援センターと市町村相談支援センター、受入施設が各々の立場から現状と課題を提起することで、地域福祉力の向上のための方策等について、率直に議論します。

### シンポジウム：触法障害者等の自立に向けた福祉的支援の現状と課題

#### シンポジスト

- 高津 努 氏（群馬県：群馬県地域生活定着支援センター 所長）  
五十嵐賢二 氏（埼玉県：入間西障害者相談支援センター 相談支援専門員）  
茂木 普照 氏（群馬県：かなやま青年寮 寮長）

#### 進 行

- 小川 博己 氏（群馬県：地域生活援助センターはあぶ／地域支援部会委員）

※諸事情によりプログラム・登壇者を変更する場合があります。

#### ●セミナーの内容等に関するお問い合わせ

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-19 KDX浜松町ビル6階  
公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 事務局  
TEL 03-3438-0466 FAX 03-3431-1803  
担当 三浦・山本

#### ●お申込に関するお問い合わせ

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル ロビー階  
名鉄観光サービス株式会社 新霞が関支店  
TEL 03-3595-1121 FAX 03-3595-1119  
担当 下枝・山辺